

1 主 題 家族の人の願い〔4－(3) 家族愛〕

2 資料名 「かやねずみの おかあさん」

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目4－(3)は「父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つ喜びを知る」ことをねらいとしている。児童は、家族の細かな心遣いによって日々の生活ができていのであるが、それを実感として受け止めているとはいえない。むしろ、自分本位の考えで、世話されることを当然と受け止める児童が多い。そこで、励ます声かけだけでなく、叱責の根底にある愛情など、親の様々な愛情に気づかせ、感謝と敬愛の情を持たせ、家庭を大切にしようとする気持ちを養い、進んで家族の役に立とうとする態度を育てたいと考え、本主題を設定した。

(2) 児童の実態

(平成25年11月7日調査 第1学年*人)

・あなたはいつでもついでをしていますか。(複数回答)	・はい *人	・せんたくものたたみ *人	・お風呂あらい *人
・どんなきもちでしていますか。	・いいえ *人	・りょうりのついで *人	・ごみすて *人
・あなたはかぞくたいせつにされているとおもいますか。	・はい *人	・たのしいきもち *人	・その他 *人
・どんなときにそうおもいますか。	・いいえ *人	・おせわしてもらったとき *人	・ほめられたとき *人
		・うれしいとき、うまれたときから、しかるから、わからない 各 *人	・やさしいとき、
		・無答 *人	

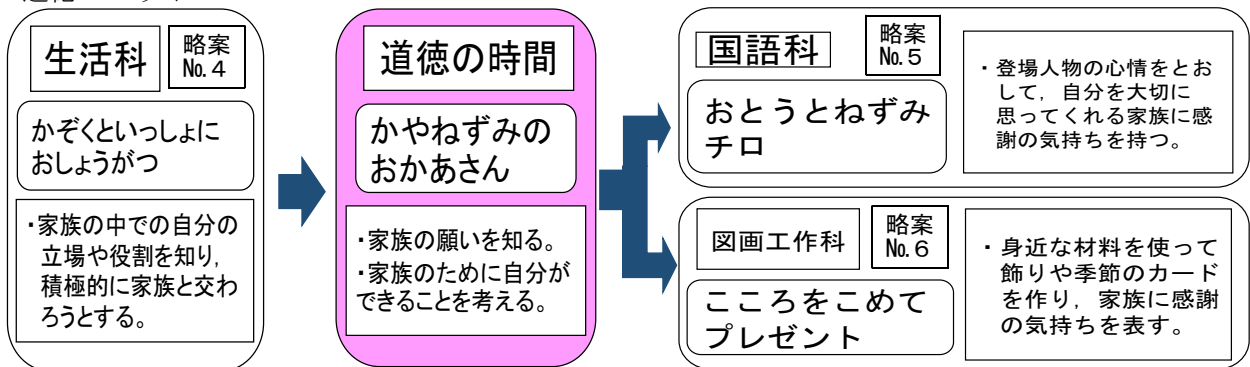
児童は7月からおてつだい帳を使って家庭で手伝いを実施していることもあり、家庭での手伝いは全員が実施していた。しかし手伝いの内容を見ると、分担された仕事をしている児童は少なく、言われたらその都度行い、自分の仕事として恒常的に責任を持っていない様子が見られる。

また「家族に大切にされているか」という問いでは、ほとんどの児童が「はい」と答えているが、理由は曖昧なものもあり、大切にされていることを実感していない様子も見られた。

(3) 資料について (資料名「かやねずみの おかあさん」東京書籍 みんななかよく 1年)

5匹の子どもを連れてかやねずみのお母さんが原っぱに出かける。原っぱでキツネに追われたお母さんは、子どもたちを助けるために葉においを付けてキツネが自分の方へ来るようにする。キツネから逃れたお母さんが子どもたちを心配していると、子どもたちがお母さんの教えを守って助かり、その後、母親を助けるという内容である。母親の子どもたちへの愛情と、子どもたちが母親の教えを守ると同時に母親を助ける行為から、家族の一員としてできることは進んで行うことの大切さを理解できるようにしたい。

4 道徳ユニット



5 本時の学習

(1) 目標

父母など家族のやさしい心遣いや家族のための努力に対して感謝し、敬愛の心を持って進んで家族の役に立とうとする心情を育てる。

(2) 自尊感情を育むのための手立て

- 共有体験を実感させるために、資料提示は映像機器を使用し、円弧で前を見られる学習形態を工夫する。(共視・共感)
- 子どもたちの役割演技を行い、母親を思う子どもたちの行動について、自分のこととして考えられるようにする。(共感)
- 家族の願いが書かれた手紙を児童に読ませることで、自分は家族に大切にされているということを実感させる。(かけがえのない存在だと思ふ感情)

(3) 準備・資料

こころのノート 挿絵 パワーポイント テレビ ワークシート 心の表情カード お面
 家族からの手紙

(4) 展開

欄	学習活動と主な発問	予想される児童の反応	指導上の留意点 (◆聴能聴能聴 ※評価)
5	1 家族について感じていることを発表する。 ○家的人是、どんなときに喜んだりしかったり心配したりしますか。	<ul style="list-style-type: none"> 自分から進んで手伝いをした時に喜んでくれた。 テストで百点取った時に喜んでくれる。 言われたのにやらなかったら怒られた。 	<ul style="list-style-type: none"> こころのノートの「家ぞくが大すき」(P 80, 81) を基に、家族で過ごした思い出を具体的に思い起こさせ、ねらいとする価値への方向付けをする。
25	2 「かやねずみの おかあさん」を読んで話し合う。 ○危険を知ったかやねずみのお母さんは、子どもたちにどのようなことを教え、どう行動しましたか。 ○キツネに追われたかやねずみのお母さんはどんな気持ちだったでしょう。 ◎お母さんを探しに出た子どもたちは、どんな気持ちだったでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> 自分のにおいを探して行くことを教えた。 子どもたちだけで巣に帰るように言った。 葉っぱににおいを付けて、キツネが自分の方に来るようにした。 おかあさんは巣がある方と反対の方に行ったんじゃないかな。 子どもたちじゃなく、葉っぱに付いた自分のにおいを追ってほしい。 子どもたちは何とか逃げてほしい。 子どもたちを逃がすためなら自分が見つかってもしようがない。 ぼくたちは助かったけどお母さんは大丈夫かな。 キツネに捕まったらどうしよう。 お母さんを助けよう。 こんな時はお母さんはこうしなさいって言ってたよね。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆資料提示は映像機器を使用し、円弧で前を見られる学習形態を工夫して共有体験を実感させる。(共視) 心の表情カードを使ってお母さんの気持ちをカードで表し、黒板に掲示することによって気持ちを視覚的に理解できるようにする。 挿絵を示しながら、子どもたちの安全を守るための母親の心情について理解できるようにする。 母親の教えを忠実に守る子どもたちの様子にも注目させ、この後の子どもたちの行動につながるようにする。 ワークシートにお母さんの気持ちを書かせることで、児童の考えを明確にさせる。 キツネにも負けない母親の強さやたくましさは子どもたちを守るためであることに気付かせたい。 ◆お面を付けて役割演技を行い、母親を思う子どもたちの行動について、自分のこととして考えられるようにする。(共感) 母親の教えを守ったら命が助かったことから、叱ったり注意したりすることには意味があることに気付かせる。 ※かやねずみのお母さんを気遣う行動から、家族の一員として役に立つことの大切さを感じている。(観察・ワークシート・発表)
10	3 自分の家族について話し合う。 ○家的人在、みなさんのしたことを、どんな気持ちで喜んだりしかったりするのだと思いますか。	<ul style="list-style-type: none"> ぼくがよくできたことがあると喜んでくれる。 わたしのことを心配してくれてるからしかる。 一人前になるようになって思ってるんじゃないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> 家族が児童のしたことを喜んだりしかったりすることには、家族の願いが存在することに気付くように補助発問を工夫する。 ※家族が自分のことを思う気持ちや愛情について考えることができる。(観察・発表)
5	4 教師の説話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> 家的人在が助かるって言うから、これからもお手伝いを続けたい。 家族がわたしのことを大事に思ってくれてうれしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆事前に「こんな人に育ってほしい」という家族の願いを児童に秘密で手紙に書いてもらい、ここで初めて児童に読ませることで、自分は家族に大切にされているということを実感させる。(かけがえない存在)